

第28回防災まちづくり大賞

早稲田学区自主防災連絡協議会

『“日常に+防災を”「わせだ防災プラン」による地域全体での防災まちづくり』
日本防火・防災協会会長賞を受賞

1. 防災まちづくり大賞 表彰式

総務省消防庁が主催する「第28回 防災まちづくり大賞」にて、早稲田学区自主防災連絡協議会が日本防火・防災協会会長賞を受賞しました。

令和6年2月27日（火）、東京都千代田区のホテルルポール麹町にて「第28回 防災まちづくり大賞 表彰式」が開催され、当会の西田会長と川島事務局長に加えて、早稲田学区の防災まちづくり活動を支援していただいている広島市東区役所地域起こし推進課から正國主査にも出席していただきました。

今回の防災まちづくり対象では、総務大臣賞は3団体、消防庁長官賞は5団体、日本防火・防災協会会長賞は9団体の受賞があり、中国地方では当会のみが受賞となりました。

表彰式では、主催者を代表して総務省の馬場副大臣が挨拶された後、すべての受賞団体に表彰盾授与があり、日本防火・防災協会の秋本会長から当会の西田会長へ表彰盾が授与されました。その後、受賞団体を代表して三重県立北星高等学校の先生が謝辞を述べられました。

さらに、選定委員長である神戸大学の室崎名誉教授より、受賞大賞となった事例の総括説明があり、その冒頭で当会が実施している早稲田学区地域防災プラットフォームの取り組みが、防災活動のネットワーク化の先進事例として評価されたことが紹介されました。最後に、受賞団体で記念撮影が行われ、表彰式は終了しました。

早稲田学区では、早稲田学区社会福祉協議会の下で早稲田学区自主防災連絡協議会が中心となって防災まちづくりを進めていますが、それは関係機関や団体の協力はもとより、地域住民の皆さんの参加があればこそです。今回も関係者を代表して当会が受賞したものと受け止め、今後も地域全体で活動を進めていきたいと思っております。



秋本日本防火・防災協会会長から西田会長へ表彰盾を授与



秋本日本防火・防災協会会長と参加者全員で記念撮影

2. 東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）の見学

防災まちづくり大賞の表彰式の後、東京臨海広域防災公園の中にある防災学習施設「そなエリア東京」を見学しました。

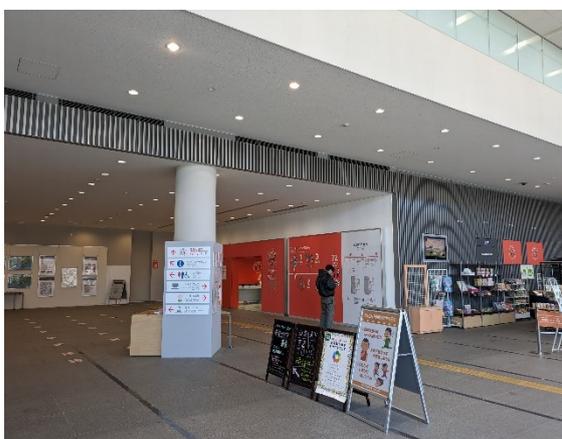
東京臨海広域防災公園は、国土交通省と東京都が合同で整備した公園で、首都直下地震など都県単独では対応できない大規模災害が発生した時の防災拠点として活用できるよう整備された施設で、実際に災害時に使用されるオペレーションルームは、映画「シン・ゴジラ」の撮影場所になりました。

この公園内にある「そなエリア東京」で、首都直下地震が発生した場合に地震発生後72時間を生き延びるための行動や備えを体験できる“東京直下72hツアー”に参加しました。ツアーでは、巨大地震直後の危険な状況にある災害現場をリアルに再現したセットの中を移動しながら、参加者に渡されたタブレットに出題されるクイズに答えることで、災害時の行動に必要な知識などを確認、習得することができます。タブレットで解説される情報以外にも、倒壊しそうな建物や道路を塞ぐ車や瓦礫など地震時に注意すべきことを確認できるようセットの細部が作り込まれていました。その他にも、帰宅困難者や被災者支援など首都直下地震の時に発生する様々な問題について映像資料で解説があり基本的なことが勉強できました。

ツアーの会場を抜けると、避難所に見立てた展示室で、ARを使った個人での備えを確認できるコーナーがあり、個人スペースの確保方法や簡易トイレの設置など様々な場面について、実際の展示物とARの情報で備えを学ぶことができました。

さらに、2階の防災学習ゾーンでは、「きほんのそなえ／一人ひとりのそなえ」と題した展示コーナーがあり、30以上のテーマ別に様々な備えに関して学べる展示がされていました。

その他にも、阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓を伝えるコーナーや、食物アレルギーの人にも対応した防災グッズの販売も実施している“そなえカフェ”などもあり、様々な形で防災が学べる施設でした。今回は時間も限られていたため、すべての箇所を見て回ることはできませんでしたが、能登半島地震があつてから色々と考えていたことについても新たな気づきがあり、良い見学ができました。



そなエリア東京のエントランス
左奥がツアー受付、右側がそなえカフェ



2階の防災学習ゾーン